

ずいそう

25年前のタイ、バンコクの思い出

村 杉 滋



バンコクは当時アジア市場が拡大するであろうとの予測から、それまであったシンガポール事務所のサテライトとして、事務所設立のために駐在しました。弁護士と事務所設立の準備に一年かかりましたが、その間、家族で90日のVISAしか取れず、3ヶ月ごとに、タイ国外にVISAの書き換えに出国しなければならない状況でした。3ヶ月ごとに隣国のマレーシア、シンガポール等への家族での出張、振り返ってみれば、のんびりとした期間でした(当時はそんな余裕もなく、事務所登録と労働VISAの取得に必死でしたが)。

3年間の短い駐在時代でしたが、無事1年後に事務所登録も取得でき、3年間バンコク滞在致しました。多少記憶が薄れてきていますが、思い出しながら記憶に残っていることを書いてみました。

それは、駐在2年目も経過した頃、ある土曜日にタイ人の友人とGOLFに行き、帰りに、食事をしようということになり、街中のレストランに行き、車は近くの路上に駐車。

通常の平日は、当時のバンコクの道路事情(大変な渋滞と、最悪な事故時の対応)から運転手がついていましたが、その日に限り、急なGOLFのお誘いだったし、郊外でしたので、自分で運転しました。友人との食事もあり、自宅へ帰ろうと思って車に戻ってみると、なんとGOLF道具一式が盗まれており、隣に駐車していた友人と相談し警察を呼んでもらいました。そこで驚いたことに、簡単な事情聴取でしたが、警察官の一言目の質問が、「誰が盗んだと思いますか?」でした。盗難にあった本人にしてみれば、気が動転しているし、何がなんだか分からないので警察を呼んだ訳で、奇異に感じましたが、後でタイ人の友人から聞くと、タイでの一般的な盗難事件では、捜査能力からして捜査対象を絞らないと捜査できないので、タイ警察当局としては絞込みの手段としてよく聞かれ

るとのことでした。

休日が終わり平日事務所に出勤し、秘書の女性(国立大学卒業の優秀な女性でしたが)に休日の事件を話すと、試しに「泥棒市場」に行けば盗難品が売っているかもしれないとのこと、また、近くにある祠にお参りをすると無くなったものが見つかるかもしれないと言われ、タイという国は、敬虔な仏教徒であり、かつ不可思議な国だと実感しました。

タイ国の名誉の為に言っておくと、多分現在はかなり近代化され、上記のような状況ではないかもしれません。

話題を変えて、タイといえば、タイ料理ですが、私が好きなタイのスープは、トムヤムプラコブと言って、すぐ想像つく方はかなりのタイ料理通とお見受けいたします。世界の3大スープと言われるらしいトムヤムタンは、御存知の方も多いと思います。

トムヤムプラコブは、同じトムヤムスープにクン(エビ)ではなくプラコブ(燻製の魚)をいれたスープです。辛さは同じですが、若干香りが異なります。日本に戻ってから家内が同じ様な香りを探したところ、結果的には、八丈島名産の「くさや」を入れると同じ香りであることを発見しました(単に家内と二人で納得しているだけで、専門家に言わせると異なるかも知れませんが)。

今でも度々トムヤムプラコブ相当のスープを家で楽しんでいます。

もう10年以上タイを訪問しておらず、いつか時間に余裕ができたなら、家内と一緒に、当時を思い出しながらタイを訪問したいと思っています。